製品名: CLASP1 ウサギポリクローナル抗体
カタログ番号: APRab08887
研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20℃で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	169kDa

抗原情報

遺伝子名	CLASP1
別名	CLASP1; KIAA0622; MAST1; CLIP-associating protein 1; Cytoplasmic linker-associated protein 1; Multiple asters homolog 1; Protein Orbit homolog 1; hOrbit1
遺伝子 ID	23332.0
SwissProt ID	Q7Z460
免疫原	抗血清はヒト CLASP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲：1171-1220

背景

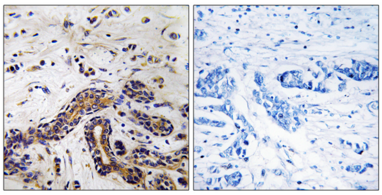
細胞質リンカー関連タンパク質 1（CLASP1） CLASP1 などのホモサピエンスの CLASP は、非運動性微小管関連タンパク質であ

り、CLIP（例：CLIP170、MIM 179838）と相互作用する。CLASP1 は、キネトコアおよび紡錘体全体における微小管の動態制御に関与する（Maiato et al., 2003 [PubMed 12837247]）。[OMIM 提供、2008 年 3 月] 機能：微小管プラス端追跡タンパク質。動的な微小管の安定化を促進する。遊走細胞において、細胞質微小管配列を細胞の先端に向かって分極させるのに必要である。細胞皮質で作用し、脱重合微小管のプラス端を ERC1 および PHLDB2 からなる皮質プラットフォームに付着させることにより、脱重合微小管の救済頻度を高めると考えられる。この皮質微小管安定化活性は、少なくとも部分的にはホスファチジルイノシトール 3 キナーゼシグナル伝達によって制御される。また、有糸分裂紡錘体における染色体の双極性配列に不可欠なキネトコアにおいても同様の安定化機能を果たす。,PTM:DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。,類似性:CLASP ファミリーに属する。,類似性:7 つの HEAT リピートを含む。,細胞内局在:微小管プラス端に局在する。前中期からは中心体、キネトコア、有糸分裂紡錘体に局在する。その後、後期からは紡錘体中間層に、終期からは中間体に局在する。遊走細胞においては、細胞体内では微小管のプラス端に、ラメラ内では微小管格子全体に局在する。細胞表層に局在し、ERC1 と PHLDB2 を必要とする。,サブユニット：CLIP2、ERC1、MAPRE1、MAPRE3、微小管、PHLDB2、および RSN と相互作用する。ERC1 との相互作用は PHLDB2 を介している可能性がある。,

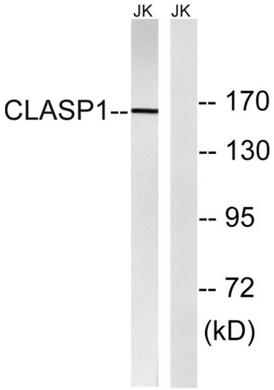
研究分野

微小管ダイナミクスの制御

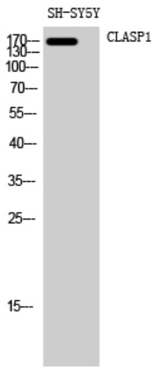
画像データ



CLASP1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト精巣組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CLASP1 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CLASP1 ポリクローナル抗体（1：2000 希釈）を用いた SH-SY5Y 細胞のウェスタンブロット解析